NTTテクノクロス

ネットワーク分離環境のセキュアなデータ受け渡し製品

データブリッジ®

物理的に分離されたネットワーク間で 安全＆簡単なデータ受け渡しを実現

データブリッジは分離されたネットワーク間で安全かつ効率的にデータの受け渡しを可能にします

データ受け渡しの必要性

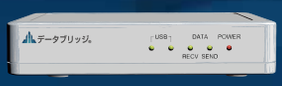
- （前提）ネットワーク分離は、安全性の高い標的型攻撃対策
- ネットワーク分離環境でも、業務上データの受け渡しは必要

受け渡し方法の問題点

- USBメモリ：持出や紛失による情報漏えいリスクが高く、運用が煩雑
- 中間サーバ：高額で導入に手間がかかる。運用も大変

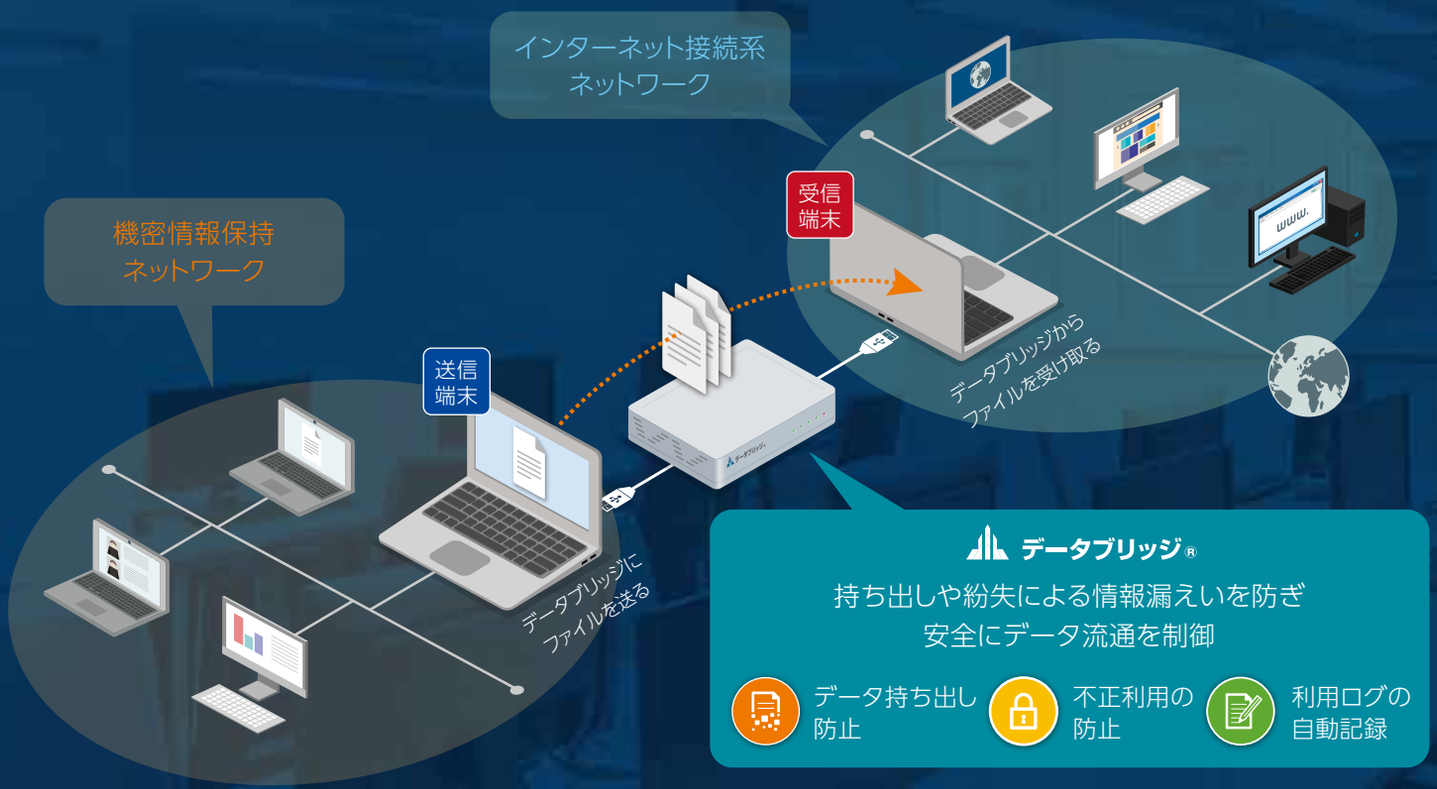
なぜデータブリッジが必要?

データブリッジなら、ネットワーク分離環境の高いセキュリティを損なうことなく、安全かつ効率的にデータを受け渡します



データブリッジとは?

- ネットワークが分離された環境で、安全にデータを受け渡す機器
- USBケーブルで端末同士を接続している間だけ、データの受け渡しが可能
- ケーブルを抜く、電源オフなどで、データブリッジからデータは自動消去



データブリッジ®

持ち出しや紛失による情報漏えいを防ぎ
安全にデータ流通を制御

- データ持ち出し防止
- 不正利用の防止
- 利用ログの自動記録

煩雑な管理業務から解放されます

USB USBメモリの場合

情報漏えいを防ぐ厳格な運用管理で、利用手続きが煩雑に・・・

1. 利用申請書を提出
2. 申請書を確認・承認
3. データを受け渡し
4. データの持ち出し可否を確認
5. データの詳細報告
6. 報告とデータを突合して確認
7. データを削除して返却
8. データの削除を確認し保管

データブリッジ® の場合

1. 利用申請書を提出（初回のみ）
2. データを受け渡し

管理業務の効率化で、利用手続きを大幅短縮！
「データの削除」や「不正利用防止」で、確認業務を自動化！

ネットワーク分離環境のセキュアなデータ受け渡し製品

データブリッジ® ラインアップ

1 手動転送タイプ

データブリッジ®

USBメモリの代替として、日々の業務の中でスポット的にデータを受け渡す場合に有効です

使い方は簡単!

Step 1
データブリッジを送信側、受信側端末にUSBケーブルで接続

Step 2
送信専用アプリケーションに転送したいファイルをドラッグ&ドロップ

Step 3
受信端末のフォルダから、ファイルを任意の場所にコピーし受け取り完了

2 自動転送タイプ

データブリッジ® AT

ネットワーク間で定常的なデータの受け渡しが必要な場合に有効です

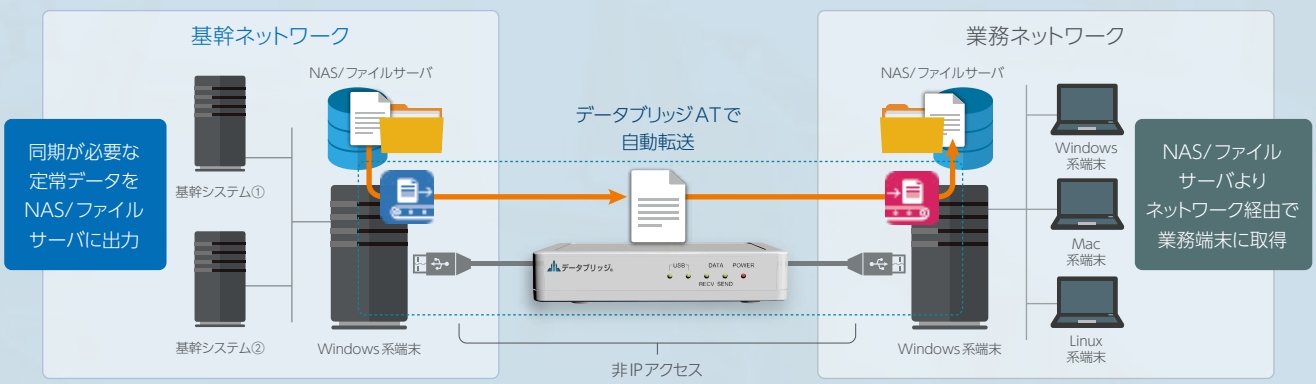
使い方は簡単!

Step 1
データブリッジATを介して2台の端末をUSBケーブルで接続

Step 2
送信側・受信側のそれぞれで専用アプリケーションを起動

Step 3
転送したいファイルを指定したフォルダに配置

Step 4
自動でファイルが転送され、送信元ファイルは削除されます



3 自動転送サーバタイプ

データブリッジ® AT Server Pro

大容量データの移行や、高速処理が求められる場合に有効です。

情報漏えいリスクを最小化する３つのポイント

POINT 1 データ持ち出し防止

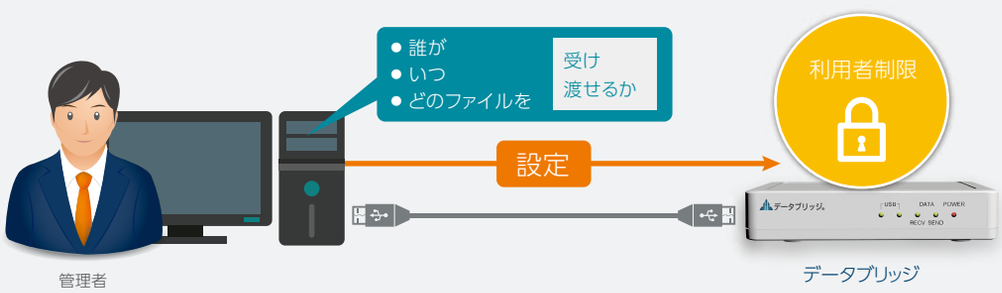
- USBケーブルの抜き去り、電源オフなどで自動的にデータが消去
- 設定時間によりデータが自動削除

持ち出されたとしても、データが機器に残っていないため、データの不正な持ち出しを防止できます。

POINT 2 不正利用の防止

- 利用できるユーザや端末をあらかじめ設定
- 利用可能な時間や、受け渡し可能なファイルを制御

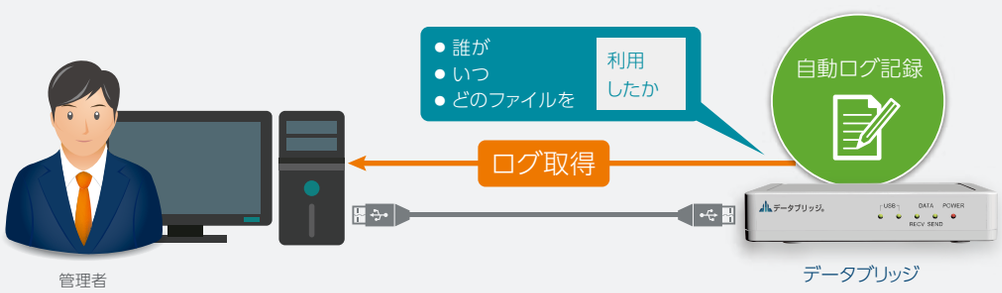
受け渡し可能なファイルの条件を事前に制御できるため、不正利用を防止できます。



POINT 3 利用ログの自動記録

- 誰が、いつ、どのファイルを渡したのか、ファイル送信時に自動でログ記録

ログにより、ファイルを渡した記録が確認できるため、不正利用を抑止し、万が一の際、追跡ができます。

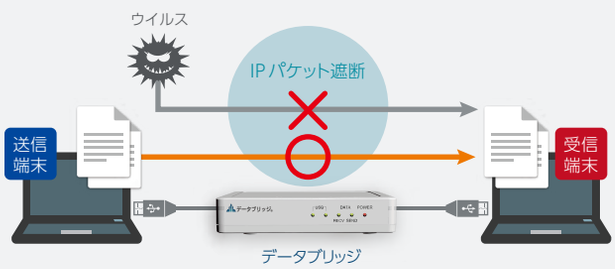


その他の機能

ALL ：すべてのデータブリッジでご利用いただけます。
AT ：ATおよびAT Server Proでのみ、ご利用いただけます。

IPパケット遮断 ALL

IPパケットを通さないため完全なネットワーク分離を実現します。
これによりIPによるウイルス侵入を防ぐ効果もあります。



一方通行 ALL

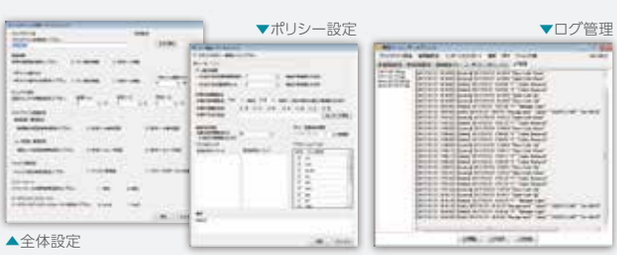
送信端末から受信端末へデータの流れを制限し、セキュリティポリシーの異なるデータの混在やウイルスの逆流を防ぎます。

ファイル無害化 (オプション) AT

悪意を仕込みやすいマクロ領域や埋め込みオブジェクトなどを除去し、無害化したファイルを自動的に受け渡します。データ受け渡し時における安全の確立と運用負荷の削減を実現します。

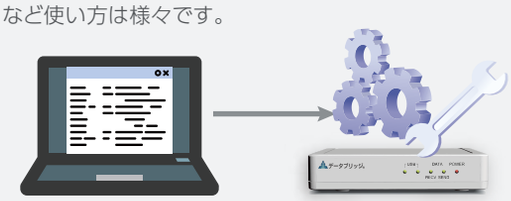
管理機能 ALL

管理ツールにより、認証要否などのデータブリッジ全体の設定、利用可能なユーザ・端末の指定やポリシーの設定、データ流通ログの取得などを行えます。



コマンドラインツール (オプション) AT

データブリッジの「管理ツール」内で可能な各種設定やログ管理を、コマンドラインで操作が可能となります。
ログの定期的な出力、データブリッジを外部からコントロールする、など使い方は様々です。



Windowsサービス (オプション) AT

受信・送信ツールをWindowsのサービスプログラムとして動作させることが可能です。
NASファイルサーバなどを活用して複数人で利用している際に、再起動後もログイン不要で利用を継続できるといった、運用面での利点があります。

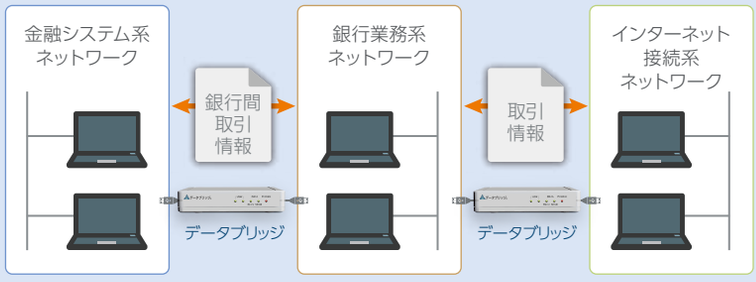
主な利用シーン

CASE 1
自治体

- マイナンバー利用事務系、LGWAN系、インターネット系の３層にネットワーク分離が行われている
- 外部業者などからメールで送られてくるファイルの処理などでデータの受け渡しが必要
- 高度なセキュリティ、データを受け渡せる担当者の制御が求められる

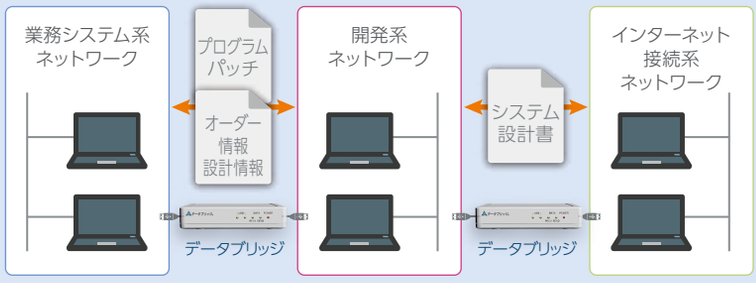
CASE 2
金融機関

- 金融システムをインターネット系ネットワークから分離する必要がある
- 取引情報、システムログ情報、マイナンバー情報などの受け渡しがネットワーク間で日々発生
- 万全な情報漏えい対策が必要とされると同時に、業務効率化が求められている



CASE 3
機密情報
取り扱い
部署

- 機密情報を守るため、セキュリティレベルにあわせてネットワーク分離を実施
- 情報持ち出し対策として、USBメモリなどのリムーバルディスクが利用禁止になっている
- 利便性を損なうことなく、データ持ち出しを完全に防ぐ方法が求められている



製品仕様 / 動作環境

製品名		小型アプライアンスタイプ		サーバタイプ
		データブリッジ（手動転送）	データブリッジ AT（自動転送）	データブリッジ AT Server Pro
ハードウェア仕様	重量	275g		筐体に準ずる※
	寸法	155×105×30 (mm)		筐体に準ずる※
性能	データ転送速度	～8MB/Sec		～25MB/Sec
	最大ファイルサイズ	6.85GB		10GB～（HWスペックによる）
	ログ容量	3GB		100GB～(HWスペックによる)
端末条件	OS	Windows 8.1、Windows 10、Windows11 Windows Server2012 R2、Windows Server2016、Windows Server2019、Windows Server2022		
	端末ハードウェア条件	● CPU： 1GHz以上 ● HDD：1GB以上空き容量があること ● メモリ：1GB以上 ● I/O： USB2.0以上に対応していること		

※データブリッジ AT Server Pro は、サーバ機器（筐体）＋専用ソフトウェア＋専用ハードウェア（PCI-E ボード x2）で構成されます。サーバ機器は、お客様の要件によってスペック等を決定します。
※Windows11、Windows Server 2019 以降については、製品によって制限があるため、お問合せください。

NTTテクノクロス

NTTテクノクロス株式会社

TEL : 03-5860-2931
E-mail : databridge.info-ml@ntt-tx.co.jp
製品URL : https://www.ntt-tx.co.jp/products/crossway/databridge/